

共働き家族の「日常生活&収納」の不満

～共働き家族から新住宅開発のヒントが見える～

住宅市場研究室 小間 幸一 kouichi-koma@toshinjyuku.co.jp

働く女性の増加とともに共働き家族の増加も著しい。共働きは、通常、昼間は不在になるという特性を持っている。共働き以外の家族と比べてどのような違いが見え隠れするのだろうか。当研究室では愛知県の分譲住宅購入者や購入希望者を共働き家族とそれ以外の家族（以下、共働き家族を「共働き」、それ以外の家族を「それ以外」と呼ぶ）に分け、日常生活や収納の不満についてウェブアンケートを実施した。

表1は日常生活の不満を棒グラフにしたものである。まず各選択肢の割合を単純集計してみよう。共働きが250.00%、それ以外が238.02%だ。共働きの不満の総量が高い。

個別に見ると、共働きで最も不満が高いのは「すっきり部屋が片付かない」で45.95%、それ以外より9.59ポイントも高くなっている。次いで「自由な時間が無い」「掃除が負担」と続くが、どれも共働きが高い。共働きの場合、日中は家を空けることが多いので滞在時間が短く、外にいる時間が長くなる。すると自由な時間もとりにくく、片付けや掃除も難しくなるということなのではないだろうか。

特に「すっきり部屋が片付かない」は、片付けの時間が少ないというだけの問題ではなく、収納への不満を象徴しているとも考えられる。そこで収納の不満を直接聞いたのが表2である。各選択肢の割合を単純集計すると、共働きは258.11%、その他は227.27%で30.8ポイントも高い。

個別には「衣類・靴」が共働きで54.05%と最も高く、それ以外よりも13.55ポイントも上回っている。やはり共働きではビジネス用の衣類や靴が夫婦二人分必要ということだろう。「食器・キッチン用品」「寝具」「掃除機器」等でも共働きとそれ以外との差が顕著だ。

ここまで表1・2を見てきたが、一言でいえば共働きの不満がいかに高いかということがわかる。これは住宅が長らく専業主婦のいる家庭を想定してつくられているからではないだろうか。今後の住宅を考える上で、共働きの実態に即した住宅は実は期待できる有望市場といえそうだ。

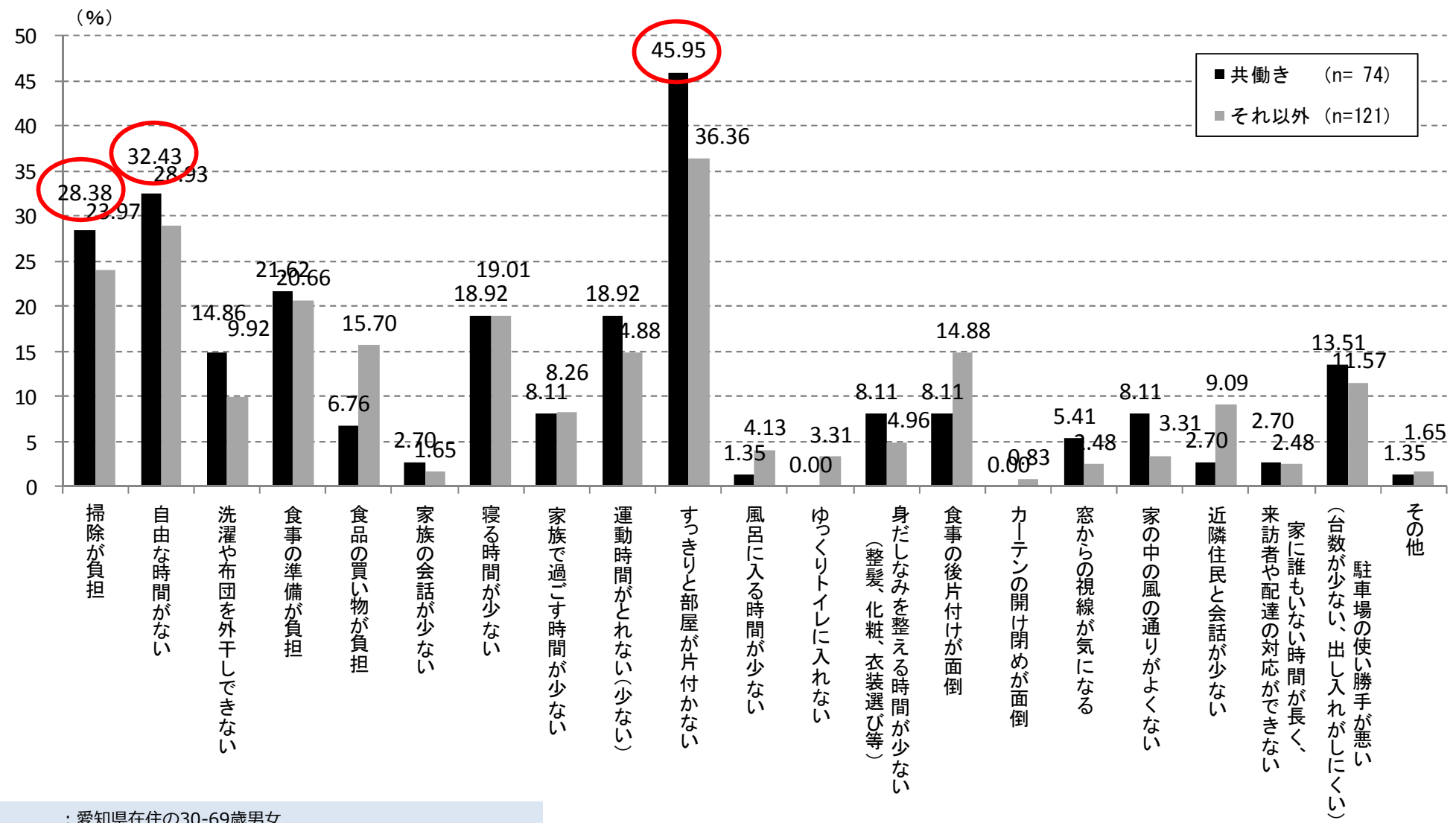
着工戸数が減少する中、新しい住宅の商品開発が生き残りのために必要となってくる。アベノミクスで女性の時代といわれている現在、「共働き家族」という一見平凡な切り口が、新住宅開発の新しい方向として新たに見直される必要があるのではないだろうか。住宅開発の切り口は意外にまだまだあるな、と考えさせられるアンケート結果であった。

以上

本ページの内容はあくまで執筆者の個人的見解に基づくもので、当社としての正式見解と必ずしも一致するものではありません。予めご了承願います。

■表1 日常生活で不満に感じることは何ですか？

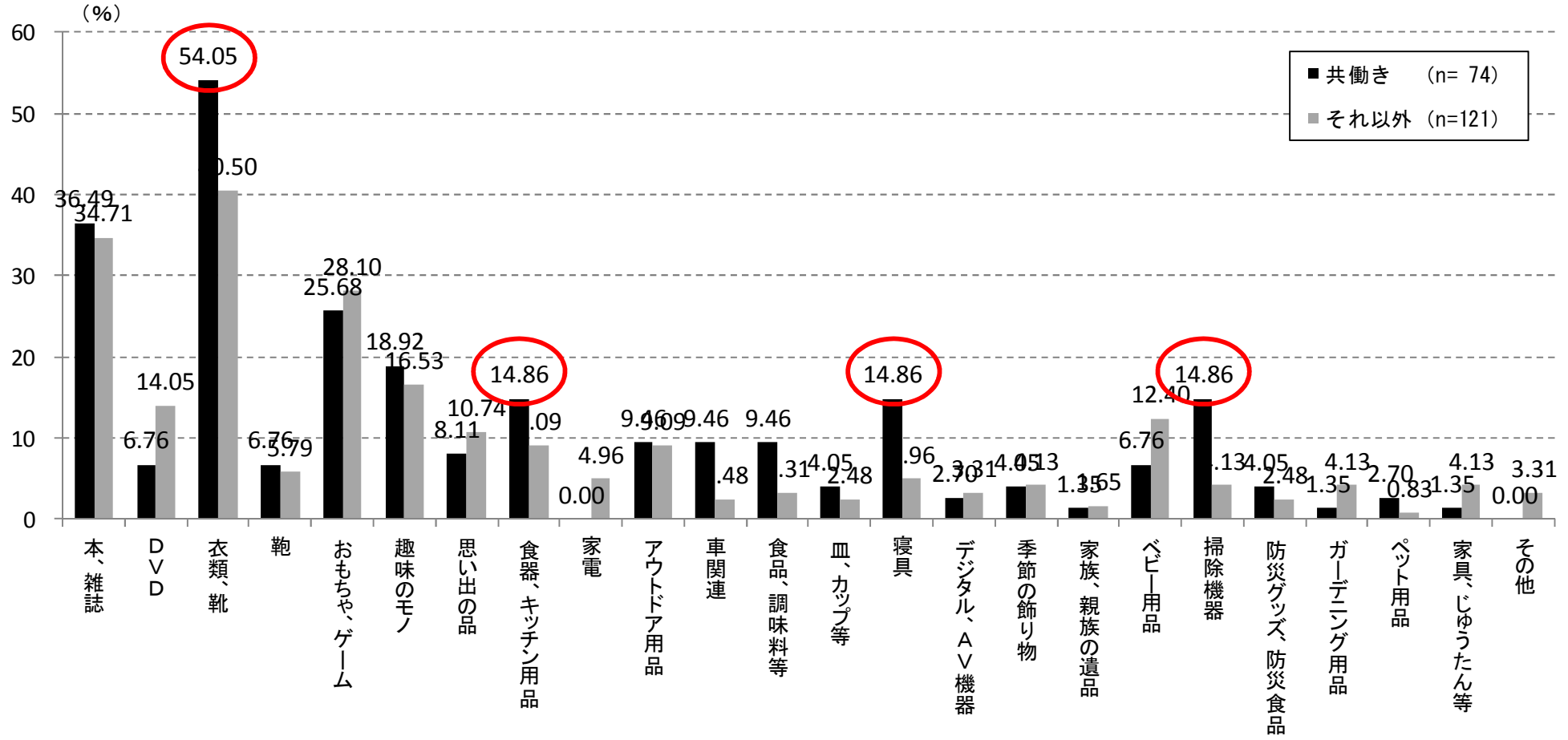
回答者：愛知県における分譲住宅購入者、購入予定者195名
 3つまで選択回答、単位：%



調査対象者 : 愛知県在住の30-69歳男女
 新築戸建分譲住宅に住み替えた人、または住み替えたい人
 サンプル数 : 195s
 調査期間 : 2014年4月4日~9日
 アンケート実施 : 株式会社インテージ <http://www.intage.co.jp/>
 企画・分析 : 東新住建(株)住宅市場研究室

■表2 家庭で収納に困っているものは何ですか？

回答者：愛知県における分譲住宅購入者、購入予定者195名
 3つまで選択回答、単位：%



調査対象者 : 愛知県在住の30-69歳男女
 新築戸建分譲住宅に住み替えた人、または住み替えたい人
 サンプル数 : 195s
 調査期間 : 2014年4月4日~9日
 アンケート実施 : 株式会社インテージ <http://www.intage.co.jp/>
 企画・分析 : 東新住建(株)住宅市場研究室